

## 2024 年度診断評価等基準委員会 第 3 回委員会 議事録

開催日時：2024 年 11 月 5 日（火）20 時 00 分～20 時 30 分

開催場所：Web 開催

出席者（敬称略）：伊藤康夫、高橋 淳、加藤 壯、筑田博隆、大和 雄、本郷道生、関口美穂、高見正成、渡邊 慶、寒竹 司、橋爪 洋、飯塚陽一、瀧川朋亨、池上章太  
欠席者：高橋真治、金山雅弘、河村直洋、福井充

### 議題

#### 各プロジェクトの進捗状況の報告と確認

##### 1. 成人脊柱変形に対する包括的新評価票作成に向けた多施設前向き研究（プロジェクトリーダー：大和委員）の進捗状況報告

研究 1 質問項目の作成：アンケートを主体とした調査。昨年の倫理審査の後、20 名の成人脊柱変形患者にアンケートを行い、新質問票の項目を作成した。

研究 2 質問項目の検証：手術を受ける成人脊柱変形患者、手術を受けない成人脊柱変形患者、脊椎疾患ではなく上肢疾患患者の 3 群に質問を行い、適正な質問項目を抽出する。JSSR 倫理委員会通過、各施設倫理委員会通過を経て、2024 年 3 月から開始となった。現在 10 施設で行っているが、手術症例目標 55 例保存例 44 例 脊椎疾患以外 41 例。現在全群 50 例超えまであと少し。症例登録を進める。

##### 2. 胸髄症におけるアウトカム評価法の検証（プロジェクトリーダー：加藤委員）の進捗状況報告

50 例を目標に症例を集めている。16 か月経過で 32 症例。純粋な胸髄症が少なく、思ったより登録が伸びないため、1 年間の期間延長。50 症例には 2025 年 6 月くらいまでかかる見込み。

途中経過として、JOA, mJOA とも術後上がっている。反応性についてもそれなりに高い。満足度はほとんどの症例で高いため ROC や MCID 算出は不可能かもしれない。

##### 3. LSS 疾患特異的アウトカム評価のための症状スケールと QOL スケール検証（プロジェクトリーダー：関口委員）の進捗状況報告

解析を進めている。合計 251 名、40-90 歳代。最多年齢層は 70 歳代。65 歳未満、65-74 歳、75 歳以上の 3 グループで解析することになった。治療前は手術例のほうが保存例より重症かつ QOL が低い。手術したほうが症状、QOL とも改善が良い。年代、神経障害形式に関しては治療満足度の差はなかった。

今後の方向性として、症状スケール何点くらいだったら手術したほうが改善や満足が得られるという見込みがわかれば。今年度中に解析を終わらせ論文を出せるようにしたい。

次回委員会：来年 4 月 JSSR 学術集会期間内に対面で開催予定。